



日本共産党 北区議会議員

## のの山けん 区政レポート

<https://ken-nonoyama.com/> [mail@ken-nonoyama.com](mailto:mail@ken-nonoyama.com)

No.773 2026.1.14

日本共産党北区議員団

〒114-8508 王子本町1-15-22

ご相談は  
お気軽に **090-2156-3510**

# 動かぬ 赤羽まちづくり

## 基本計画策定から半年、「区民意見の反映」どこへ

赤羽駅東口のまちづくりについては、山田区長が年頭あいさつで「ガイドラインの策定や具体化を進めていきます」と意欲を語ったものの、昨年7月に「赤羽駅周辺地区まちづくり基本計画」が策定されて以降、半年間も動きがありません。基本計画策定までの2年間に、10回の検討会や2回の住民説明会を開いてきたことは対照的です。

基本計画では、今後の進め方について、「検討のプロセスの各段階で適切に区民意見の聴取と反映を行います」と明記されていますが、住民が意見を述べる場もありません。

国交省は昨年、市街地再開発事業への補助金のあり方を見直し、赤羽の「中央地区」

### 赤羽駅東口まちづくりの推移

- 2023年7月～25年3月 赤羽駅周辺地区まちづくり基本計画策定検討会（計10回開催）
- 2024年1月 東京都が「第一地区」市街地再開発を事業認可
- 2024年12月 基本計画オープンハウス型説明会
- 2025年5月 基本計画（案）説明会
- 2025年7月 「赤羽駅周辺地区まちづくり基本計画」策定



「第一地区」再開発ビル予想図

## 「立地適正化計画」検討中か

再開発計画については現時点で補助金交付の見通しがたつていません。区は補助金を受けるために、北区では必要とされていない「立地適正化計画」を新たに策定する意向を示していますが、まちづくりの具体化が滞っているのは、水面下でこの計画の検討を行っているからでしょうか。

新たな会議体を設置して情報を公開し、住民参加での検討を早期に開始するべきです。（のの山けん）

## 北区が「二十歳のつどい」

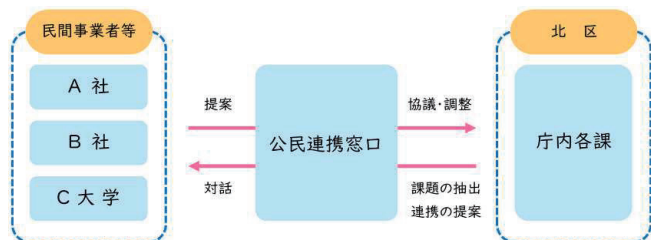
12日、北とぴあで、恒例の「二十歳のつどい」が開催されました。区長の式辞、区議会議長の祝辞に続き、二十歳代表が誓いの言葉を読み上げました。

今年、二十歳を迎えた区民は3345人。若者が希望を持てる北区政の実現に力を尽くします。（のの山けん）

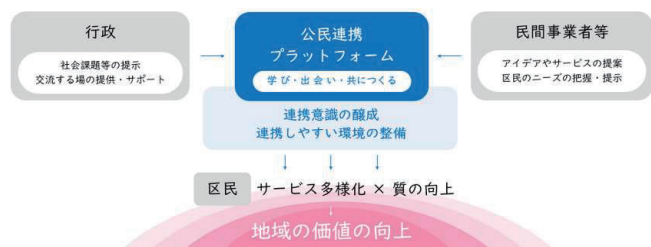


# 北区が「公民連携推進条例」で導入の民間提案制度 民間参入のチェック機能は

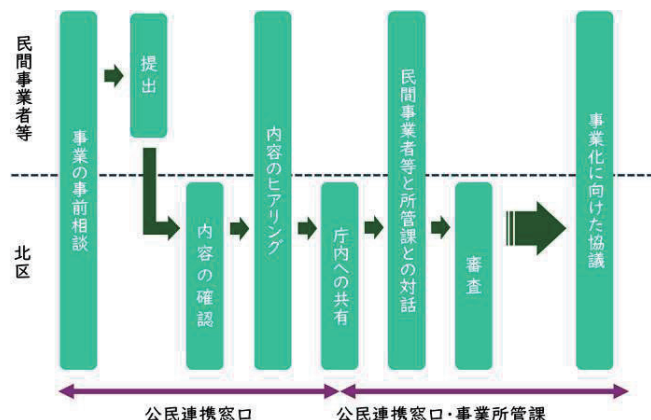
## 【公民連携窓口】



## 【公民連携プラットフォーム】



## 【民間提案制度】



来年度、北区が制定する公民連携推進条例では、「公民連携プラットフォーム」で情報共有する民間企業などが、「民間提案制度」を活用して行政課題解決への提案を行い、区が「公民連携窓口」での審査を通じて民間を行政に参入させる仕組みを定めます。

これまで民間事業者が行政課題を担う際には、

市街地再開発における都市計画決定や、指定管理者制度における指定議決など、第三者機関や議会のチェックを受けることが通例でした。

一方、今回の民間提案制度では、営利目的の民間企業が、公民連携窓口での審査に通れば行政課題を担うことができるとされています。提案の審査は、「原則として外部

有識者を含めた審査委員会で行う」とされていますが、議会での議決が必要かどうかは明確にされていません。

公民連携窓口は、区長直轄の「区長室」に置かれることになっています。「民間企業との癒着」などと指摘を受けないためにも、公正なチェック機能が働く仕組みの構築が必要です。（のの山けん）

## 赤駅東口で街頭演説 国民の暮らし応援する政治に

14日、赤羽駅東口で日本共産党街頭演説を開催。私が司会を行い、田原聖子衆院東京12区国民運動部長と宮本徹前衆院議員が訴えました。

宮本氏は、物価高騰対策をまともに行わず、医療費など国民負担増を押し付けようとしている高市政権を批判。消費税5%への減税や中小企業支援と一体の賃上げなどの実施で、「国民の暮らしを応援する政治に」と提案しました。（のの山けん）

